

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	株式会社オーエヌトランス
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	名古屋市港区潮見町37番地の39
工場等の名称	株式会社オーエヌトランス
工場等の所在地	名古屋市港区潮見町37番地の39
業種	運輸業、郵便業
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	自社ビル等（自ら所有し自ら使用している建築物）
事業の概要	道路貨物運送業
計画期間	令和4年4月1日 ～ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

公表期間	令和6年2月8日 ～ 令和6年5月8日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所） 事務所
		ホーム ページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	052-612-2289		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

環境方針

当社は、深刻化する大気汚染・地球温暖化を防止するため環境保全活動を推進する事が企業の社会的責任の一つと認識し、輸送サービスの提供という事業活動から生ずる環境負荷を低減していきます。

基本方針

- ①法規制を遵守し、環境保全に努めます。
- ②エコドライブなど省エネルギー運動を推進します。
- ③環境保全に関する教育・啓蒙活動を実施します。
- ④廃棄物の適性処理・リサイクルを推進します。
- ⑤本方針は、広く社外に公表します。

株式会社 オーエヌトランス
環境保全責任者
代表取締役 杉 江 竜 太

(2) 地球温暖化対策の推進体制

環境保全活動推進体制

環境保全管理責任者	取締役社長 杉江 竜太
環境保全推進責任者	取締役社長 杉江 竜太
環境保全推進者	安全推進室室長 星野 一臣
エコドライブ推進責任者	運輸営業部次長 竹内 知史
点検整備責任者	安全推進室室長 星野 一臣
環境保全活動推進委員	安全推進委員11名

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,504	t-CO ₂
① 温室効果ガス 換算 排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素 (③を除く。)		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素 (発電所等配分前)		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量 (①~⑩合計)		2,504

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
温室効果ガス 総排出量	2,707	t-CO ₂	2,699	t-CO ₂	2,504	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)			0.3	%	7.5	%		%
温室効果ガス みなし総排出量					2,493	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率 (対 基準年度)					7.9	%		%

項目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績			
	令和 3 年度		令和 6 年度		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	
原単位あたりの 排出量								
削減率 (対 基準年度)				%		%		%
原単位あたりの みなし排出量								
削減率 (対 基準年度)						%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価 (目標の達成/非達成の理由)

輸送量によって変わるが、軽油使用量が削減されたことで目標を達成できている。
車両の燃費向上に頼ることなく、無駄な燃料を使用しないよう引き続き心がける。

備考 1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。
備考 2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。
備考 3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。
備考 4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
エコドライブの実施	各車両の燃費向上の為、全乗務員に省エネ走行研修を实践させる。	導入した車載端末を利用し、運行状況を把握することで省エネ運行を实践させる。	デジタルタコグラフにより、アイドリングの状況を確認し、無駄なアイドリングはしないようにドライバーの指導を実施。
低公害車の導入	最新適合ディーゼル車の導入について計画を策定し、目標達成に向け導入に取り組んでいる。	車輛代替時には、最新適合車の購入やをアイドリングストップ機能がついた車両を優先的に購入する。	定期的な車両代替を実施し、およそ、10年以上たった車を代替している。
自動車の点検整備	エンジンオイルも低燃費対応のオイルとし、エアフィルター清掃・交換にあたっては、走行距離について独自の基準を設定し実施している。	全車両、3箇月毎に実施する。	全車両について、基準に沿った清掃・交換を行った。
廃棄物の適正処理及びリサイクルの推進	環境ラベル対象の物を優先購入する。		
事務所における環境保全への推進	冷暖房温度を28℃・19℃を徹底する。	クールビズ・ウォームビズを推進する。事務仕事については、室温に応じた服装で行う。	

指針第 2 号様式

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要 (規模、性能、発生エネルギー量等)

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
電力	太陽光発電	10.1 t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用の状況

計画期間 1 年度目 (令和 4 年度) におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量 (みなしの削減量)
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量 (みなしの削減量) の合計

10.1	t-CO ₂
------	-------------------

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

--

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--